

「メモリアルブック」制度がスタートしました



県立図書館では、人生の節目の時などに、寄付金を受け付ける「メモリアルブック」制度を設けました。

いただいた寄付金は、県立図書館の図書購入資金として活用し、希望されるジャンルの図書を購入することで、皆様のニーズに沿った蔵書づくりに役立てられます。

～メモリアルブック制度のあらまし～

- ① 県立図書館 1 階事務室と 2 階カウンターにある寄付申込書に寄付額(1口2千円)や希望する図書のジャンル等を記入して、県立図書館にお申し出ください
- ② 県立図書館で寄付受納を決定したあと、受納書と納付書を送付します
- ③ 指定金融機関で、納付書により寄付金を納付してください
- ④ 納付された寄付金により、希望されるジャンルの図書を購入し、メモリアルブックとして閲覧室に配架します(図書に寄付者のお名前は記載しません)

くわしいことは、県立図書館 資料整備担当までお尋ねください 0952-24-2900

本で見る佐賀

県立図書館で受け入れた図書の中から、佐賀に関する本を探してみましたので紹介します。

創造的な食育ワークショップ

金丸 弘美／著
岩波書店／刊



食育って何をすればいいの？
味覚のワークショップってどうやるの？
具体的に目的別の事例を紹介している。県関係では、唐津市内各地のそれぞれの事例が10例紹介されている。著者は、唐津市出身の食環境ジャーナリストである。

朝鮮通信使

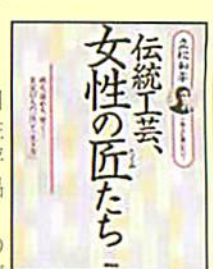
仲尾 宏／著
岩波書店／刊



江戸時代初めての朝鮮通信使が来日してから400年。外交関係を担った対馬藩や雨森芳洲、新井白石のことも、通信使の今日的意義を考える。彼らは、その後、西日本各地に定住している。佐賀県でも有田に定住し、陶器製作にかかわって名を残した人々の事が書かれている。

伝統工芸、女性の匠たち

立松 和平／著
祥伝社／刊



海外でも高評価を受ける日本の伝統工芸。12人の女性伝統工芸士と作家・立松和平との対談集。それぞれの作品もカラーで掲載されている。佐賀県関係では、伊万里焼の伝統工芸士・青木妙子さんが紹介されている。

徐福

池上 正治／著
原書房／刊



2300年前、秦の始皇帝の命により神業を求めて、「徐福」が日本にやって来た。徐福とはいったい何者だったのか？徐福伝承を説き明かす。県関係では、徐福らが上陸したとされる佐賀市諸富町の石碑、徐福をご神体とする金立神社のことが紹介されている。

久米邦武

高田 誠二／著
ミネルヴァ書房／刊



佐賀県出身で岩倉使節団に随員し、帰国後に「米欧回覧実記」を編纂、日本の歴史学、古文書学、歴史地理学などの近代化に貢献した気鋭の歴史学者・久米邦武。従来の歴史観を問い直す論文を発表してきたその生涯に迫る。

無名戦士たちの行政改革

澤 昭裕+WHY NOTメンバー／編著
関西学院大学出版会／刊



行政改革推進ネットワーク「WHY NOT」のメンバーが、それぞれの立場から行政改革や市民活動について論じる。県関係では、古川知事が目指している「戻らない改革」が掲載されている。